

第5回 白馬村再生可能エネルギーに関する基本方針等連絡協議会 議事録

日時：令和3年12月22日（水）午後1時30分～

会場：白馬村役場2階 201・202 会議室

委員出席者

齋藤 達郎（株式会社リコー 環境事業開発センター 販売マーケティング室 副室長）
柳澤 英俊（北アルプス地域振興局 総務・環境課 企画幹兼環境係長）
田中 洋介（白馬村農政課 農政課長）
割田 敏明（大北森林組合 代表理事組合長）
田口 功一（合資会社 白馬電力 代表）…………… 欠席
和田 寛（株式会社岩岳リゾート 代表取締役社長）
伊藤 英喜（株式会社五竜 代表取締役）
渡辺 俊介（白馬E Vクラブ 事務局長）
高田 翔太郎（一般社団法人 POW Japan 事務局長）
草本 朋子（HAKUBA SDG's ラボ 代表）…………… オンライン参加
坪井 夏希（パタゴニア白馬/アウトレット 環境担当）
石田 幸央（株式会社しくみ 代表取締役）
武田 昭彦（白馬ファーム株式会社 代表取締役） 薪事業者 …………… 欠席
田中 末春（有限会社田中建設（白馬・木材リサイクルセンター）） 会長 …………… 欠席

オブザーバー出席者

大村 健太（株式会社早稲田環境研究所 代表取締役）…………… リモート参加
小沢 晃弘（リコージャパン株式会社 長野支社 ソリューション営業部長）

事務局吉田総務課長

開会。（コロナ対策事項を説明。）

<会長あいさつ>

齋藤会長

報告書については、大枠ができてきたと思うが、中身はまだまだ修正する箇所があると思う。大事なものは、具体的なアクションを次にどうつなげていくのかであり、今日は未来志向で議論していただきたく、よろしく願いたい。

<会議事項>

齋藤会長

前回の議論の中で、再エネというキーワードで始まっているが、ゼロカーボンの意見もたくさん出てきて、方針やゴールをどこにするのかということが発散してしまったところがあり、経緯と目指すゴールのイメージを共有したいので、事務局に改めて説明をお願いしたい。

事務局矢口係長

準備会から第4回の協議会までの経過や協議内容を説明

この協議会でまとめる内容（着地点）について説明

・ この協議会としては、「非常事態宣言に対する基本方針、即ち基本計画を策定し、住民や事業者が進んでいく方向性を定めていくというものであることを確認してもらいたい。

・ 資料4は、第1回の資料ですが、こんな方針で進めるというもので、右側には内容構成としては、こんな案になるだろうという基本計画の土台を示したもの

・ 上記のような基本計画を策定するということに進んでいくという認識をしていただきたい。

確認しておきたい事項が2点あります。

- ① 本協議会の名称ですが、「白馬村再生可能エネルギーに関する基本方針等連絡協議会」となっているが、再生可能エネルギーに偏りがちになってしまった経過があるが、準備会の中でも「再生可能エネルギー…」という名

称がついているが、最終的な方向性としては、「ゼロカーボン」への考え方に変換したという認識をしている。

準備会でまとめた基本方針には次のように書かれている。

・ 村が宣言した「気候非常事態宣言・ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、(中略) 基本方針を以下のように作成しました。(1)～(5) 以下省略 19:59

「再生可能エネルギー…」という名称がついているが、最終的に目指すのは「ゼロカーボン」であり、その中に再生可能エネルギーもあるということで進めているところを確認していただきたい。20:18

② 本協議会でやることとして(次第に書いてあるとおり)、まず国への報告書となる基本計画を1月までにまとめ提出すること。また、村長から諮問を求められており、その報告書を基に本協議会としてどこまでやるのか、協議し決定していくことになる。今回は、そのための意見をお聞きしたい。

村長への答申がゴールではないことを認識しているので、議論をよろしく願いたい。

齋藤会長

準備会から第4回協議会までの経緯等の説明があった。改めて設立準備会の提言を踏まえると、協議会の名称として頭に「再エネ」とあるが、省エネも含めてゼロカーボンに向けてというのが基本であり、改めてそういう中身で考えていくことについては、皆さんも異存ないと思う。

基本計画の中身についてはこれから説明があると思うが、次のアクションの基本となるものであり、住民や事業者に解り易く伝えるという工夫や意識が必要かと思うので、そこに重点を置き考えていきたいという説明でした。

村長への答申もそれがゴールではなく通過点であり、その先につなげることが大事ですという説明でした。

皆さんが良ければ、会議事項(1)「白馬村のゼロカーボンビジョン(案)～白馬村気候非常事態宣言に向けた基本計画～」について、基本計画の素案の説明をお願いしたい。

事務局矢口係長

「白馬村のゼロカーボンビジョン(案)～白馬村気候非常事態宣言に向けた基本計画～」について説明

(資料事前配布に付き、重要な変更点のみ説明)

齋藤会長

ここまでの説明に対する意見や質問をお聞きしたい。

高田委員

変更点に関する意見ですが、p53「脱炭素化に向けての白馬村の方針」については、細分化した中でまた脱炭素化の方針が出てくることに違和感を感じる。脱炭素化の方針は、脱化石燃料も設備の電化もすべてを含めたもので、「森林におけるCO2吸収」や「CO2吸収における森林利用の方針」とか、森林吸収に限った書き方が解り易いと思う。

齋藤会長

カッコ書きの部分が主ということ。その方が、レベル感が良いかもしれない。

事務局吉田総務課長

基本的な考え方の違いがなければ、言葉遊び的なところに、この限られた時間を使うのは勿体ないので、その辺は事務局で判断させていきたいと思う。

坪井委員

p36の資料が何を表しているのか？また右上に原子力発電や事業用水力発電とあるが…。

事務局矢口係長

これは、業種ごとの電力と化石燃料消費量の割合を示しており、原子力発電については、項目はあるが数値には入っていない。

事務局吉田総務課長

紛らわしいものは、抜いた方が良いと思う。

事務局矢口係長

紛らわしいので凡例を削除します。

齋藤会長

セットで見ないと解らないとか個別で見ると誤解を招くということがあるので、まだ幾つか残っていると思うので、構成はしっかり見たい。

和田委員

同ページの索道は、化石燃料の使用量が非常に少ないがどう計算したのか。また、圧雪車は？

A 重油等についてアンケートに答えている所と答えていない所があり、反映されていないのではないか。A 重油を使っていないスキー場はないと思う。

事務局矢口係長

これは、リフト分の電気使用量だけで、レストラン等は業務部門に入っている。

渡辺委員

p 31 の資料について、今までの資料には「索道（リフトのみ）」と書かれていた。

大村アドバイザー

索道については、レストランとホテルは除き、リフトに関する数値のみ記載している。

事務局矢口係長

「鉄道」の記載を削除し、「索道（リフトのみ）」とする。

齋藤会長

細かいところは事務局と受託者に対応をお願いするが、その内容は（後日）まとめて提出してもらうことで次の議題に進みたい。

高田委員

基本計画の概要版「IV目標達成に向けた施策」で、村民と事業者の取組を網羅的に書いているが、行政の取組を書かないのか。設立準備会の報告書にも「村民一人ひとりや村内事業者、行政が一丸となってゼロカーボンを目指します。」と書かれており、他の自治体でも庁舎を再エネに切り換える等の話があるので、そこがないのが勿体ないと感じる。特にそういう施設（公共施設？）の再エネ切替は難しくないというか、環境配慮契約法に基づいて電力調達している自治体の事例もあるので、そういうことで進められれば、住民に対しても「こういう取組をしている。」という意識付けにもなると思う。

齋藤会長

これは、次の方向性の最後に文言として入れることはあっても良いのかもしれない。

事務局吉田総務課長

具体的な事案としては、公共施設を新電力に切り換えることは終わっている。

行政の取り組むべきものの一つの見せ方として、確定しているものであれば可能と思うが、予算を伴うものをどうするか悩むところで、言葉ではよく見えても具体的な行動が見えないかもしれないので、載せる内容は考えたい。

計画を推進させるために行政が後ろ盾になるような補助金等についても、施策としてのこういうものを構築したというパターンも考えられる。

本編に載っていないものを概要版には載せられないので、そこは事務局に預らせていただきたい。

齋藤会長

どういふ表現にするかが大事なところ。

高田委員

概要版に載せるというより、この計画の中に三本柱の一つとして書き込むことが必要。

事務局吉田総務課長

「ゼロカーボン社会の実現のため」ということで、この会に計画の策定を依頼しているので、行政に関するところまで踏み込んで書けるかということもある。姿勢としてはやぶさかではないが、いくつかの考え方やツールとして載せることは考えさせていただきたい。本編に、計画の中で行政としてはこういうことをやる、それを概要版にも載せるということは可能だが、見た目や重さ的にもどう見えるかについては、考えさせていただきたい。

石田副会長

村民に説明したときに同じ指摘を受けて回答することになると思うが、行政には計画や予算があることは理解するが、それこそ見え方の部分で「村民や事業者には求めるが、行政は何も書かないのか。」ということにならないか。

事務局吉田総務課長

住民からすれば、そういうことはあると思うが、進めていく内容はこれで答申をし、その実行を伴わせるために施策を考えて欲しい、それを含め説明していく。同時並行で進んでいくという考えもあるので、（計画は計画として、）行政の立ち位置としては率先して住民に協力をお願いしていくということだが、何をやっていくのかは計画が出され、答申のところでは計画の実効性については確実に担保しながら別組織を立ち上げ、それぞれの施策を推進すること。その中で村はこういうことをやっていくという説明の仕方であれば村からするとやり易い。

諮問する内容が解っていないながら村がこれをやるということは違和感があるが、立ち位置を一緒にしなければいけないことは解っているので、どこまで出せるかは預らせていただきたい。

協議会で計画ができ行政に投げたが、それをどう実行していくかという答えを村としても出していかなければいけないが、それは別の問題としてどう説明していくのか、村としてはそれを後押ししていくこと、そのための施策を実行していくという方が、流れからすると若干遅いと言われるかもしれないが、その方が村とするとやり易いということです。

高田委員

「村民の取り組みと事業者の取り組み」に網羅的に書かれているが、これをいかにどうやって進めていくのかという話は、答申のところでもカバーしていくのか。

事務局吉田総務課長

投信の仕方もいくつかパターンがあり、この計画に沿って具体的に何を優先させる、若しくは優先できるものから期間を定めて取り組むとか、皆さんで意見交換をしていただき、どういう進め方をすべきというものを意見として付けることも考えられるし、ここまでの調査は調査事業として終わったが、これを実行するための組織体制までこの会として意見をつけながら、優先すべきはこの部分で、これについては新たな組織を立ち上げて取り組むこと等もある。

この計画書の扱い方、それを更に発展した形でこの会でまとめ、それを含めて意見として幾つかの意見を併記しながら進めて欲しいという答申の仕方もある。

事務局としては、どちらでも対応できる状況であり、そこは委員の皆さんの思いがどうかということになる。

齋藤会長

ここからの議題の中身は、そこだと思う。基本計画なので、ある程度網羅的にしないと基本にならない。今までの4回の協議会でもここを重点的にすべきということ等の意見が出ていたが、それを幾つかまとめ、最後に「協議会としてはこういう方法で打ち出していきたい」ということを付けていきたいので、それをこれから議論できればと思う。

次の議題の説明を事務局にお願いしたい。

事務局矢口係長

(2)「村長への答申内容について」説明

村長からの諮問に対する答申をまとめるにあたり、基本計画をベースに、本協議会として何を入れていきたいかについて、今回は皆さんの意見を聞き、方向性を定めていきたい。

齋藤会長

基本計画を活かすために、自由に意見をいただきたい。

坪井委員

計画は村全体とか壮大でパワーや時間もお金も掛かり、直ぐにはできないと思うので、象徴的なものを1～3つ程選びプロジェクトにしていく。村が再エネに切り換えた姿を見て住民の意識が変わっていくこともある。例えば新しい建物については、ZEHにする。全部でも一部でも良いが、スキー場を地域で作ったエネルギーでリフトを稼働させるようなピンポイントで象徴的なものを作っていければ良いと思う。

伊藤委員

村長も替わるかもしれないが、行政としても図書館等の公共施設を先進的な環境に配慮したものにしていくこと等を盛り込んでいく。白馬村でも（気候非常事態宣言・ゼロカーボンシティ）宣言をしているが、（ニセコ町の片山町長とつながりがあるが、）ニセコ町ではコンポストも25年位前から始め97%（普及率？）となっており、具体的なものすべてが進んでいる。そういったモデル的にも先進的に着実に進んでいる所をしっかりと参考にして、良い所から学び具体的に落とし込んでいく。費用も掛かるがニセコ町ではあらゆる補助金や助成金もしっかり組み込み、庁舎を新しくしたが暖房要らずでも温かい。色々なことを考えており、災害対策で会議室を作ったが、災害時だけでなく普段皆が使えるようにしている。行政も議員も視察に行ったようだが、見るポイントが大事だと思っている。

村民にお願いするにしても、行政が主張なり考え方をもちやっていくから行政が主体的になれるということが参考になるのではないかな。どんなリーダーが現れても答申に盛り込んで要望することが大事だと感じる。

齋藤会長

象徴的な取り組みをするべき、先進的な事例を紹介するべきということは、情報発信や啓発活動も重要ですよという形ですか。

伊藤委員

難しいことは解らないので、学ぶことや啓発をし、情報をインプットして噛み砕く作業も大事だと思う。

森林吸収については、私はあまり当てにしていない。それより我々がどう活動していくのかにしっかりと焦点を置きやっていくことが大事だと思う。

齋藤会長

森林吸収も黙っていたら進まないなので、アクションの方向を示さないと森林保全等にもつながっていかないとと思う。

割田委員

ゼロカーボン目指して再生可能エネルギーとしてのチップの生産を来年度から開始する予定で話をしている。

健全な森・森林づくりをしていかないとCO2吸収にもつながらないということがあり、村の森林計画に基づき団地化して堀之内から森林整備を進めていくこととしている。他の事業体も行っている。

具体的にどう行動を起こすかについては、村の施設からが進めやすいと思う。基本計画の中でも村民と事業者が一体となると書かれており、一体となってやるためにはどう行動を起こすかをしっかり出していかないといけない。

補助金等は答申の後の話で、村民や皆がやっていくためにどう補助金を出していくのかは大事だと思うが、まずは一体となって取り組もうということが大事で、村としても先頭きってリーダーシップをしっかりと発揮していくことが大事だと思う。

木曾町では、庁舎を木造で建てたが、それもCO2吸収するという役割を果たしており、町長がリーダーシップを持ち取り組もうとしている。それは森林だけでなく水力を含め、町の経済についてもしっかりしたスタンスを持ち、住民と一緒にやっていくということで、今は住民も参加している。住民が一体となるとときの行政の役割も非常に大事になってくると思っている。広葉樹も金にならないと思っていたが金になってくる。実際にCO2を吸収している。山に入り材を出せば、化石燃料に代わるものとしてチップを生産していける。山を持っている人が主人公になり、皆さんが活躍すればCO2の削減につながるという様なことを宣伝していくことにより、住民参加の行動計画ができてくると思う。

齋藤会長

今日は結論を出すわけではなく、できるだけ多くの意見を聞きたい

事務局吉田総務課長

計画書に村のスタンスを載せるとあったが、この会として行政の責務若しくは行政への期待という形で村の関わり方とか、しっかりリーダーシップを執り事業を執行するという載せ方であれば、意見をいただいたものと言われた内容を、行政への期待ということで本編でも概要版でも書き易いと思う。

責務という言い方が良いのか、行政としてリーダーシップを発揮するという言い方が良いかはあるが、言い方は任せていただきたいが、そういう形で良ければ、今の計画書で抜けている行政のところを、事務局で出された意見をまとめるような形にしたい。

草本委員

和田委員が話した、「スキー場では化石燃料をもっと使っているはず」ということを聞き、実感値と（計画書に）出ている数値の違いに少し怖いと感じた。坪井委員の「索道がこの地域の産業・地域をけん引する事業ということからそこでモデル事業をやってもらう」という意見はとても良いと思う。また、以前から言っている断熱とかも家庭部門では断熱がもっとも効果が出るのではないかと、索道はここに力を入れていきますとか、そういうことが方向性として見えると、皆がそれぞれ自分の立場で何をするかというイメージが湧くような報告書であれば、非常に役に立つのではないと思う。

白馬バレーリゾートの SDG's 小委員会では、これをやると（SDG's、特に環境問題に力を入れている内容にしているが、）SDG's も前に進むという事業種別のアクションリストを作っている。この報告書もそれぞれの立場の人が、自分は何をしたら良いのか、何となく見えてくるようなものになれば良いと思う。

齋藤会長

これも教育や啓発活動ということですか。

草本委員

村として政策を出していくなかで、村はこういう方針でやっていくなかで、自分は何ができるかというそれぞれの人が当事者意識を持ち、何かに取り組もうと思えるように内容であれば良いと思う。

例えば、白馬南小の断熱改修でも子供たちが断熱の威力を感じていて、ストーブの石油使用量も実際に減っているようなので、これをやるとインパクトがあるということを解り易く示していければ、その効果も事実を基に検証できると（それは難しいかもしれないが）意味があると思うし、これから村が行っていただろうと思われる何かへの助成金等に解り易くつながっていけば良いと思う。

伊藤委員

索道のリフト小屋等を新築するときに断熱材を入れるとかは常に考えているが、そういうことを皆がやれるようにしていく連携とか、そういう機運にさせること。索道が大きいと言われているが、（株）五竜だけで燃料費は、重油・軽油等の化石燃料が昨年 3 千万円、電気代が 6 千万円位。今年はその 1.3 倍位を見込んでいます。

子どもたちが教室の断熱をして効果が現れていて実感できるということで、ストーブも点けなくても良い日があるだろうし、そういう魅力的なことをやっていくことも大事で、それを皆でやれるようになれば大きな力になると思うし、それを行政側もサポートしていけるような施策にすることが大事だと思う。

齋藤会長

あまり再生可能エネルギーに関しては出ていないが。

和田委員

基本的に省エネの話だけでは実現し得ないことだと思うので、新しいビジネス体として進めるような形でない限り、誰かがやってくれるわけでは決していないので、誰かがやらなければいけない。ただ、1 企業だけではリスクを取り切れないので進めないの、ここに書いてある事業スキームが現実的だと思うが、これを何年までに誰がどう主体的に動くのかとなる。これは基本計画であり、行動計画化されていないので、それを次のステップで「誰がいつまでに何をやる」という行動計

画できちっとやる。それが（現時点で）欠けている部分で、村長への答申では「村が主体となりそれをしっかり考えてください」と書く。こういうものを継続して事業者は、村内になれば村外の事業者にと先に進めていかないとけない。

家庭や企業に省エネしましょうと言っても皆そんなにできなくて、教育だけでも足りなくて、最終的には経済的インセンティブが届かないと誰もそこに手をつけない現状があり、だから進んでいない。

実は経済的に成り立っているということを証明することが一つ。足りてないのであれば総花的に全部に補助金を付けることはできないので、村長に対する答申であれば、これとこれは優先的に考えるべきというようなことに対して村もコミットしてもらいたい。

齋藤会長

行動計画化するためには、こうあるべきで、こういう方向で回答するべきというところまで盛り込めると良いと思う。

高田委員

行動計画が抜け落ちていた基本計画だという認識だったので、幾つかアイデアを用意してきたので紹介したい。

ゼロカーボンの実現には、今のビジネスや生活をガラッと変えるため、かなり網羅的な取り組みが必要となるので、優先順位やメリハリを付けないと進まないと思う。白馬村で進めていく上でも、象徴的なものにプロジェクトを立ち上げてそのモデルを走らせる中で、住民や事業者にインスピレーションを与えたり、知見を共有していくというような進め方が一番効果的なのではないか、行政はその旗振り役だと思う。

・オンサイト PPA：スキー場施設でのオンサイト PPA を行政も協力する形で進めていくというのが良いと思う。白馬村の観光客の半分はスキー客ということもあり、人が多く集まる場所もスキー場であり、そういった場所で太陽光発電が巧く機能していることを見せることも意味があり、スキー場での CO2 排出量も電気が占める割合が大きいということからも良いと思う。

・バイオマスの熱利用：森林に囲まれるロケーションですし、村内の CO2 排出量の 6 割が熱利用で電気より大きいということから（宿泊施設の関係だと思いが）、薪ボイラーの導入を進めるべきと思う。発電施設より短期間で進められ、供給される材が地域内のものであれば地域循環という視点もクリアになり、森林整備にもつながるので、バイオマスの熱利用は入れていくべきだと思う。

・行政の取組：公共施設の再エネ切替と新施設では「徹底的なゼロカーボン」というより「カーボンネガティブ」な発電設備と断熱をしっかりしていくような施設を作り、そこを利用する住民たちがそれを実感する様な空間を作ることは、冊子を色々作るより啓発につながり、大きなことにつながると思う。

・宿泊施設の CO2 排出量が大きいので、ここに対する新税の議論もあったが、その財源を利用し宿泊施設の省エネ投資等を後押しする制度を作ることも必要になってくると思う。

石田副会長

バイオマスは発電までいなくても、活用するだけで熱利用になるということ？

高田委員

熱利用だけでもバイオマスに代替していくべきではないかと思う。

割田委員

木質バイオ発電の場合、FIT 買取では、未利用材や間伐材の中の材しか使えないので、かなりの木を切らないといけないので、皆苦労している。発電ではなく熱利用の観点でいくと、間伐材でなくても松くい被害木等を使うこともでき、山をきれいにすることにより森林吸収にもつながっていくので、是非積極的にやらせていただきたい。移動式のチップパーも購入したので、村外に出すと CO2 の問題にもなるので、できるだけ地産地消でこの地域の中で処理してもらおうと考えており、熱利用のことも入れてもらいたい。

今の子どもや孫の時代には異常気象がもっと進むと思うので、今の大人がやることとして啓発していく必要があり、子どもたちにも環境教育として伝えていく必要があると思う。村民一体となり取り組みしていかなければ、もう間に合わないという認識を持たせるための教育もしっかりやっていくべきだと思う。

渡辺委員

EV にすることは、目的ではなく手段です。今年も EV シェアリングを村と共同で行い、村民の意識も徐々に変わって

きたかなと思う。そういうことをやる理由は、実際に利用してもらうこととそれが何につながるのかということを理解してもらうことが重要だと思っている。村民や事業者の皆さんは、まず基本計画の概要版を見ると思うが、この概要版を見て「何故ゼロカーボンを目指すのか」という説明が足りないと思った。教育に関わってくると思うが、気候変動とゼロカーボンがセットになっていることを巧く伝えていく必要があると思った。

長野県の「ゼロカーボン戦略」が出たときに「ゼロカーボンブック」という冊子ができ（県のホームページでもダウンロードできる）、千曲川の氾濫や庁舎の木造化により CO2 排出量がこれだけ減りました等の資料が添付されている。

この概要版を読んだときに、なかなか行動につながらないのではないかと思ったので、答申の中にも教育というところを重要視しているので、実際に行動に移してもらうための取り組みが必要だと感じた。

齋藤会長

もっと解り易い解説書やガイドブックのようなものは、別に用意しないと伝わらないかもしれないと思い準備していたが、できれば次回の協議会に出したいと思う。

石田副会長

4 点まとめて話をしたい。

・再生可能エネルギーについて、生産と需要に応える施策は、作るだけでもいけないし、域外で作った再エネを使うのでは域内の CO2 削減に直接的につながらないので、新電力を誘致及び事業立上げを検討し推進することは重要な事だと思う。

・省エネの普及・促進：普及については「ゼロカーボン勉強会」等の啓蒙活動。草本委員や守破離の横山さんが北小や南小、白馬高でやっている断熱のワークショップをたくさんやることで、実感値を得ながら意識向上に努めていく。

・森林の CO2 吸収量は、自動車が排出している CO2 よりも多いということが注目すべき部分で、これ（森林）を守っていかないとこれが減っていくので、これをしっかり守ること。バイオマスの熱利用は、とても有効な森林資源の活用だと思う。

・サーキュラーエコノミー：グリーンワーク白馬という観光局が指導して進めているものに対応して、宿泊施設のインバション研修があり、なかでも宿泊施設の方々が SDG's に向けた取り組みをしていくことが、これからの観光資源になることに気づき始めて、主体的な動かされている。それと一緒に動かししていくためにも村の基本方針を軸として受け入れることも重要であり、啓蒙と宣伝や情報発信にも非常に良いと思う。

以上の 4 つの柱で

齋藤会長

今の話の方向で最終的に巧くまとめて提言・提案できると良いと思う。

石田副会長

それぞれ象徴的な活動が記載、アクションプランになっていると、より動かし易いし皆も協力し易く納得も得られ、注目している周辺市町村の理解も得られるのではないかと思う。

柳澤委員

オンサイト PPA は、大きな問題はないと思うが、オフサイト PPA の活用も小水力発電も普及させていかなければいけない中で、白馬電力も地元対応にかなり苦勞されていると聞いている。場所の選定も前提条件としてあるが、本協議会としては、一定のオフサイト PPA や小水力を推進していくことは、特段問題がないということで良いか確認しておきたい。ひとつの観光資源としても、ゼロカーボンという目標に向かっていくことが最優先として歩調を合わせていくことがと思う。

学校は公共施設であり対象とならないと思うが、公民館等の断熱改修を研修を兼ねて行くと元気づくり支援金の対象となり、助成を受けながら施設が断熱化され、冬場でも快適に公民館活動もできるようになるので活用していただきたい。

田中委員（農政課長）

犬川の小水力発電施設については、現在設計中で令和 6 年度の発電開始に向けて進めている。可能なら蓄電等もやっていきたいと思っているが、農水省の補助金では難しいので、元気づくり支援金を活用できればと考えている。

森林整備についても進めていく考えで、来年度は大北森林組合が堀之内地区で実施する予定であり、現在は山仕事創造舎が飯田地区で整備を進めており、その支援をしていきたい。

木質バイオマスについては、村農政課で管理している施設にバイオマス暖房設備を導入したいと考えており、これも元気づくり支援金等を利用できればと思うのでよろしくお願ひしたい。

広葉樹の活用の話が出たが、間伐材を進めていくには針葉樹の残地材を何とかしなくてはいけないということがあり、林業事業体や村内の興味のある方たちと「針葉樹の活用」ということを考えている。実際に村内には木質バイオマスボイラーを入れている宿があるが、費用が掛かることが一番のネックで、飯田地区のその宿では、500万円程掛かったとのことで、熱い思いがないとできないと聞いている。

高田委員

柳澤委員の小水力発電とオフサイト PPA について、オンサイト PPA は需要家の敷地や敷地内を使うので問題ないが、オフサイト PPA だと野立の太陽光発電所に対する社会の風当たりが、強くなっていることは間違いないと思っている。山梨県でも条例を出しており、最近では茅野市・富士見町・原村でも、「地域が望まないものは受け入れない」という宣言をしている。そういう最新の潮流を踏まえて、「オフサイト PPA を進めるが、その部分はしっかりクリアしないと進めない」というような「ただし書き」を加えることが必要ではないかと思う。

和田委員

オフサイトで先ず考えるのは、小水力だと思う。

オンサイトは太陽光で、オフサイトは小水力で考えていこうということだと思う。

柳澤委員

資料 p44 と 45 では、太陽光発電の目標値 25.6MW の内 9MW をオフサイトでということになっており、太陽光のオフサイトを少なからず入れることで資料が作られている。

和田委員

それを計画として良いのかという話になる。

高田委員

せめて、運用のルールを決めておかないと心配かなと思う。

齋藤会長

景観やそういうこだわりは、捨ててはいけない村だと思うので、どこかに必ず書いておく必要があると思う。

石田副会長

調査結果や積み上げたデータの精査は、ここではできないのでしっかりしてもらったうえで、メッセージを間違わないようにしたいということが、今のアドバイスで出てきていることだと思う。

前回、フライブルクに 30 年位住みガイドをされている方から、ドイツの SDG's 先進事例を紹介してもらったが、太陽光パネルがどこかの敷地に建てられている訳ではなく、殆どが屋根の上に建てられている。例えば、サッカーのフライブルク FC というブンデスリーガのスタジアムの屋根に設置されている。「屋根が太陽光パネルということが景観的にどうかという議論が出るくらいなら、では農地でやっても良いですか」という逆説的に「では、屋根でやろうよ」というようなものを村として出していくという方向感があると思うので、そこを是非検討したいと思う。

アメリカではペットボトルではなく、アルミ缶の利用が非常に進んでいるそうです。それはアルミの場合は、殆ど 100% 再利用ができるから。ペットボトルは繊維になり難しいが、ボトルトウボトルは今大北エコパークでも進められている施策でロスが大きいが、アルミ缶は殆どロスがないので、ペットボトルトウアルミに変わってきているそうです。

先日の百馬力でも中学生が、「エコボトルよりマイボトル」。「村の中で再利用するボトルを作っていくとうきにも、アルミで作っていく」というリサイクルに優しい物にしていくことで、活動的にもメッセージ的にも高く、世界の動きを踏まえた活動を推進できるような施策を立てたいと思った。

齋藤会長

サーキュラーエコノミーの活動方針に関わってくるものだと思う。
色々貴重な意見をたくさんいただき、ありがとうございました。
次回に向けてまとめながら進めたい。

事務局吉田総務課長

調査事業の計画書については、行政の責務を入れることは、事務局で入れるようにする。

今までの話を聞く中で、計画は計画としてこのままで良いが、その先に見える高田委員の「行動計画が見えていないこと」や石田副会長の「4つの柱としてまとめること」について、計画を立てた後、この会として答申する内容として若干ブラッシュアップし、計画書とは別に「更に計画を進めるためにはこういうことが必要で、実行するためには、云々」という考え方を数ページ程度の報告書にまとめ、計画コンペ・根拠となる内容のもの・答申書という形で良いかどうかを決めていただきたい。

それをすべて計画に盛り込むとなるとスケジュール的に厳しいので、現段階で出ているものを巧く見せられるような形でとりまとめた。その先は、新たな組織がないと進まないと思うので、取り敢えず現状でまとめた。

次の協議会では、本編の最終確認、答申に向けた内容の確認と文言の確認をってもらうこととしたいが、それで良ければ、作業を進めたい。

齋藤会長

事務局から

事務局矢口係長

計画書については、今日いただいた意見を反映させたものをメール等で送るので事前に確認していただきたい。

協議会の答申内容については、ポイントとなる石田委員の「4つの柱」といただいた意見を加えたものを1月末頃には示したいので、次回はそこを議論していただきたい。

事務局吉田総務課長

スケジュールが合えば、答申書の内容等も事前に確認いただき、文言も含め事前に調整できれば、その場で村長に答申書を渡したい。日程を合わせて調整していきたい。

割田委員

近隣市町村も同じような方向に向かっているようで、少なくとも北アルプス圏域の連携や共同で行っていくというようなことを盛り込んでもらいたい。圏域の中で（森林資源の）地産地消を行い、完結させていくことで加速していくのはいか。

齋藤会長

地産地消のことも計画の中に入れられると良いと思う。

1:56:10

事務局吉田総務課長

以上で会議を終了とします。

15:26 閉会